

第3章

避難生活

集落内避難から避難所へ

本震発生後、立て続けに震度6弱の余震が2回起こるなど、震度3以上の揺れが続き、家屋倒壊の恐れがあったことから、秋山地区を除く村全域に避難指示を発令。村民は村内7箇所に設営された第二次避難所に避難をしました。それから、避難指示解除までの10日間にも及ぶ、不自由な避難生活を余儀なくされました。



避難所の様子
 1 特養「フランセーズ悠さかえ」
 2 避難所に掲示された激励メッセージ
 3 箕作集落センター
 4 旧東部小学校
 5 北野天満温泉
 6 役場（多目的ホール）
 7 栄中学校
 8 避難所で元気に過ごす子ども達

避難所の追加指定

地震発生後、村民は各集落の第一次避難所から、午前11時に出された避難指示により第二次避難所に移動してもらうことになりました。

秋山地区を除く第二次避難所の指定場所は、「役場」「北信小学校」「東部小学校」の3箇所でしたが、小学校の体育館は天井及び電灯等が落下するなど危険な状況だったため使用できず、村全域に及ぶ避難者を収容することができなかったことから、避難所として使用できそうな場所を検討し、特別養護老人ホームの「フランセーズ悠さかえ」「箕作集落センター」「栄中学校」「北野天満温泉」の4箇所を追加指定しました。

トイレの確保

第二次避難所として7箇所に避難所を開設するべく下調査を実施した結果、6箇所は上下水道設備の被災に伴い、トイレの確保が一番早急に対応すべき事項でした。

状況把握のできないうちに、あるレンタル会社の訪問を受け、迅速にレンタルトイレの確保ができましたが、すべて和式トイレだったため、高齢者や足腰の不自由な人達には使い勝手が悪く、すぐに洋式トイレを追加して設置しました。

設置後は、トイレのタンクが予想以上に早く一杯になったり、水が凍り使用できなくなってしまうなどのトラブルもありましたが、うれしかったことは、使用しているうちにトイレの清掃、水の補給などを各避難所とも避難者の皆さんが当番制により当たり前のよう管理してもらったことです。

義援物資の配布

避難所と物資手配係の間で、毎日（多い時には朝・昼・晩の3回）要望を受けては配達する作業に追われ、避難者の皆さんが不便しないように対応していましたが、避難所生活が長くなるにつれて注文も多様化し、「アイマスク」「耳栓」といった注文もありました。その中で、ある日若い女性より直接生理用品の義援物資をいただき、男

7箇所の避難所では、どこも狭く、プライバシーが保てない不自由な生活を強いられました。その中で、施設の2階は入居者が使用していたため、1階部分のみしか使用できなかった特養「フラ

今後の課題

経験のない集団生活が続いた中で、全国から寄せられた激励のメッセージや絵手紙などを掲示したり、公民館図書室の本を学校以外の避難所に配置するなど、気をまぎらわして時間潰しができるようにしてみました。

一方で、避難者の皆さんが一番感

激した情報伝達は、村幹部による各避難所を訪問してのいたり、激励の言葉であつたように思います。

毎回の発行で一番伝えなかったことは、不安な気持ちばかりの中で、みんなの気持ちをひとつにすることにこだわり、メッセージ「力を合わせてがんばろう!」を記事の最後に必ず記載しました。

避難所において生活用物資に匹敵するほど、不足したのが「情報」でした。

テレビ画面、あるいは新聞等を通しての情報はすぐに伝わりましたが、発信元となった役場（災害対策本部）から避難所へ直接情報を伝えることができませんでした。

そこで、震災発生の翌日から避難所の村民向けに身近な情報源として、手作り新聞「まけんなっ! 栄村!!」（栄村震災情報）を発行しました。

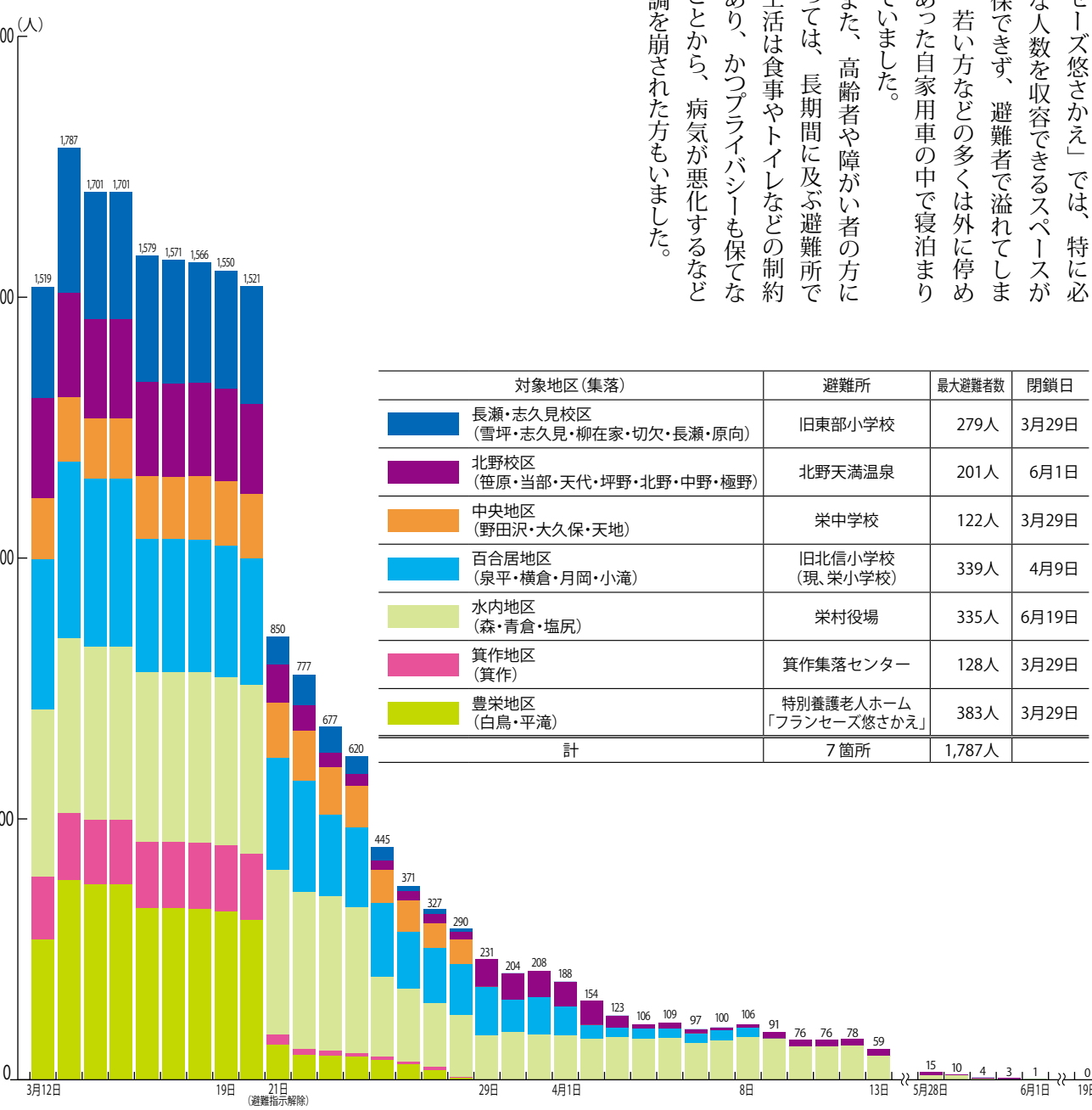
A3版の手書きにこだわり、食事

性では気が付かず、大変ありがた

いことでした。

避難所生活の工夫

避難所別 避難者数の推移



1 避難所に設置された情報掲示板 2 役場の多目的ホールだけでは避難者を収容できず、ロビーまで人が溢れた 3 避難所ではトイレ掃除もみんなで協力して行った 4 炊き出しの様子（箕作） 5 避難所で気分転換を兼ねて行われた体操の様子



避難所に配布された支援物資（栄小学校・玄関）

横倉地区以外の人達はまだ来ていなかったので、皆で掃除から始め、終わる頃には他の地区の人達も避難してきました。

小学校の教室は全部で4箇所しかない、部屋割りを各区分長さんと話し合い、教室は各区分1箇所ずつ使用し、畳のある部屋が1箇所あるので、そこにはお年寄りが入り、教室に入りきれなかった人達は多目的ホールに入ってもらうように決めました。

最初の夜は支援物資の毛布1枚だけでしたが、幸いにも電気がきいたのでストーブで暖を取ることでできました。しかし、夜中に余震による耐震装置が作動し、灯油が止まってしまい、大変寒い思いをしました。

また、トイレも壊れていた、仮設トイレを玄関横に4台設置されましたが、お年寄りなど足腰の悪い方のために洋式トイレが追加で2台設置されました。

避難所での共同生活

これから4地区の皆さんと一緒に避難所で生活していく上で、各地区の区分長さんと話し合いをして、「朝は6時に起床し、窓を開け空気を入れ替えた後、ラジオ体操をする」「消灯は夜9時」「トイレ掃除は地区毎に交代で行う」「支援物資は人数に合わせて平等に分配し、むやみに持ち出さない」などの決まりごとを作りました。

食事は、次第に支援物資のお弁当などが届くようになり、区分長は毎朝2日先の弁当の数を把握し、報告するようになったのですが、外出した人達が全員戻っているのかを確認するのが大変でした。

それから、避難所生活の最初の頃は、階段の下にアンケート箱が設置され、意見を役場に伝えていました。その後、役場職員と各区分長の毎日のミーティングの中で、各区分長が地区の人達の意見をまとめてきて、そこで話し合いをするようにしてもらいました。

避難所生活が進む中で、気持ちのやり場がなく、ちょっとしたこと



避難所ではお互いに助け合いながら過ごした

でトラブルも起きましたが、一時帰宅ができるようになり、家の片付けが少しずつ進むにつれて、気持ちが落ち着いてきたような気がしました。また、ある団体の方から中越地震における国の災害支援制度等の話をしていただき、少し気持ちが楽になったような気がしました。

今回の震災では、国道がどうか通行できたことから、支援物資が迅速にたくさん届き、また2日目からは近隣の市町村のおかげで風呂まで入れていただき、体と心の温まりを感じました。避難生活を通じて、多くの皆様より支援をいただき、こんなにうれしく思ったことはありませんでした。

自分の家に帰れたのは、4月に入ってからでしたが、畳の上で布団の中で寝ることができたことが一番良かったように思いました。

一次避難



横倉区長（当時）

わたなべ としまさ
渡辺 利正さん

横倉地区では、集落内の避難所（第一次避難所）を改善組合のドーム型車庫と北信小学校（現在、栄小学校。以下「小学校」という。）のピロティの2箇所に決められていました。私は、地震発生時は区分長でしたので、まず地区の人達の安否を確認しなくてはと玄関まで出ましたが、戸が開かず、上隣の人が来て開けてもらい、お互いの無事を確認し、自分の家族と上隣の家族を旧道の車庫の所に避難させ、地区の上にある旧道を通り、改善組合のドーム型車庫の避難所に向かいました。ドーム型車庫の少し手前まで行くと、道路が地割れしていて、アスファルトが盛り上がりつつあったので、石で砕いて何

とか車が通れるようにしてドーム型車庫まで行きました。そこには、既に数人が車庫の中に、お年寄りや子どもたちは車の中で暖を取りながら避難していました。各家族に安否確認したところ全員無事のことでしたので、皆さんに小学校に移動しようと言うと、小学校もかなり被害が大きく、この方が安全ではないかと言われましたが、これからは小学校が避難所になるだろうし、ここでは暖も取れず、食べ物もないということで、全員に移動してもらいました。

小学校に行ってみると被害がひどく、地区の人たちは小学校隣の農村広場の駐車場に避難していました。そこで、まず全員の安否確認をしたところケガもなく、全員無事でいたことが何よりも嬉しく思いました。そこで、地区の皆さんとこれからどうするかを相談したところ、寒いので暖を取ろうということで、たまたま駐車場に停めてあった村のマイクロバスや自分達の車の中で暖を取りました。そうこうしてから、食べ物も心配しなくてはと女性に炊き出しをお願いしようとしたところ、電気・ガス、水もない中で、

どうしようかと思いましたが、米は近所の人が家から持ち出してきてくれ、さらに釜と薪なども何とか用意ができ、2釜分の炊き出しができました。その他に、餅、缶詰、菓子、みかん、りんご等も持ち寄ってくれました。餅は炭をおこして、焼いて食べることができるので、非常食には良いと思いました。

避難所の設営

朝食と昼食を兼ねての炊き出しを食べた後、避難指示が出されたので、農村広場を片付け、第二次避難所の小学校に避難しました。小学校には、横倉・月岡・泉平・小滝の4地区が避難することになり、



避難所の様子（栄小学校・多目的ホール）